

# 良い面「ほめて育て」

注意欠陥多動性障害（ADHD）は、年齢や発達に比べて「気が散りやすさ、忘れっぽい（不注意）」「落ち着きがなく、じっとしていられない（多動）」「気持ちのコントロールが苦手で、とっさに行動する衝動性」ことが主な症状です。現在子どもは三十人に一、二人が、その特性を持っているとされています。個人差がありますが、まどまりのない話し方のために相手にきちんと説明することが苦手です。自分勝手に見える行動や反抗的な態度のために、叱られたり責められたりすることも多く、周囲から理解されず集団や学校生活にな

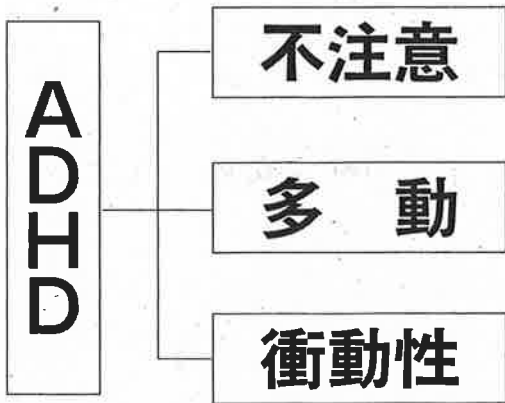
## ADHDへの理解と支援



福井大病院 子どものこころ診療部  
滝口慎一郎医師

じめないことがあります。友達とのけんかやトラブル、学業不振のために意欲や自信を失い自己評価が下がります。しかし、「本人の努力、情緒が不安定になって、思春期にうつや不安障害、不登校、反抗や非行といった問題につながる場合があります。

最近、発達障害は脳の情報処理システムの発達に不十分な部分があるとされ、ADHDでは、脳内の神経伝達物質ドーパミンやノルアドレナリンのアンバランスが原因の一つといわれています。また、脳の成長が一年以上遅れることにより前頭葉が小さく、働きが活発でないことが明らかになっています。30%以上に読み書きや計算が挙げられます。さらには、神経伝達をスムーズにすることが必要です。子どもは良い面を「ほめて育て、適切なほめ方と叱り方を知り、適切な行動を教える、できそうなことから少しずつ目標に取り組み、手順を分けて教える、合図やルールでコミュニケーションスキルを学ぶ、集中しやすい環境を整える、生活習慣を変える」などが挙げられます。



診断には、多動・衝動性もしくは不注意に関する項目のうち6個以上が、12歳よりも前に、6カ月以上持続して見られることが基準となる。

## 薬の併用で症状を軽減

30%以上に読み書きや計算が挙げられます。さらには、神経伝達をスムーズにすることが必要です。子どもは良い面を「ほめて育て、適切なほめ方と叱り方を知り、適切な行動を教える、できそうなことから少しずつ目標に取り組み、手順を分けて教える、合図やルールでコミュニケーションスキルを学ぶ、集中しやすい環境を整える、生活習慣を変える」などが挙げられます。

はじめに学校の先生などと協力し、一貫性のあるサポート体制をつくるのが大切です。次に生活環境を整え、家族や先生に以下の点を心掛けます。当診療部では、治療法や保護者・先生へのアドバイス、子どもの心理面接だけでなく、ADHDのメカニズムを明らかにする研究や新たな臨床試験も実施しています。お子さんの成長を見守り、育むお手伝いを私たちが一緒にできたらと考えています。

